

東京大学大学院人文社会系研究科

平成 23 年度冬学期次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣

## 帰国報告

亀田真澄

日本学術振興会特別研究員(PD)  
次世代人文学開発センター研究員

### 研究課題

日本語	1950 年代旧ユーゴの共産主義文化 —ユーゴ版社会主義リアリズムの担い手—
現地公用語 (セルビア語)	Komunistička kultura u bivšoj Jugoslaviji 1950-ih godina: Nositelji jugoslavenskog socrealizma

### 派遣先での活動

#### (1) 派遣先の基本情報

国名、都市名、研究機関名、コンタクトした主な研究者名（該当する場合）など

国名	セルビア共和国
都市名	ベオグラード
研究機関	ベオグラード芸術大学大学院応用美術学部
受け入れ教官	ミランカ・トディッチ教授（専門：旧ユーゴの写真史・共産主義文化）

#### (2) 派遣期間

出発日 2012 年 3 月 29 日

帰国日 2012 年 5 月 2 日ベオグラード発、5 月 3 日東京着

### 研究成果

#### (1) 当初の計画の概要

旧ユーゴ地域における大戦間の芸術運動については既に先行成果の蓄積があるものの、共産主義プロパガンダを文化史的観点から見直す研究は未だに少ないため、現地の資料を用いて独自に検証する必要がある。そこで本課題は、1950 年代の文化政策を担っていた人物たちの活動についての文献調査を遂行することで、博士論文の主旨を実証的に支えるこ

とを目指す。

## (2) 実際に達成された成果

### ①資料収集の成果：

セルビア国立図書館における調査によって、貴重な資料を収集することができた。具体的な成果は、以下の通りである。

(i)写真・映画にかかわる雑誌：『Naša fotografija』『Foto-Kino revija』などを参照することによって、旧ユーゴにおける写真・映画のアマチュア啓発運動について調査することができた。

(ii)文化政策に関するレビュー：主に、旧ユーゴにおける政策転換期である1952年（計17号）に、文化政策に関わっていた人々によって発行されていた文芸誌『Svedočanstva』を参照しながら、当時の文化政策上の混乱やそれに関する識者の反応などを調査した。

(iii)インタビュー記録：アヴァンギャルド芸術とプロパガンダを結びつける、多くのキーパーソンの人物像について、これまで明らかにされてこなかった。今回の資料調査では、プロパガンダ写真家・映画監督 Žorž Skrigin や、ユーゴスラヴィア映画公社局長であった Aleksandar Vučo などの、音声資料を含む様々なインタビュー記録にアクセスすることができた。

### ②ベオグラード大学における研究発表：

ベオグラード大学演劇学科での国際学会「U potrazi na umetničkom formom（芸術形式の探求）」(2012年4月26日～28日)において、「メディア表象における『現前性』Savremenost u medijskoj reprezentaciji」のタイトルのもとで口頭発表を行った（2012年4月27日）。

### ③現地の研究者との面談：

受け入れ教官であるミランカ・トディッチ教授をはじめとして、現地の研究者や博物館の学芸員、旧ユーゴプロパガンダに関するドキュメンタリー映画で知られる映画監督ミラ・トゥライリッチ氏らと面談を行うことにより、研修内容の理論的枠組み・分析の方法論について意見交換することができた。

## 今後の研究展望

本研究課題によって達成された成果をもとに、博士論文の執筆を進める。博士論文の目的は、ソヴィエト・プロパガンダの様式が、1950年代までの旧ユーゴにおいていかに引用・再占有・流用されているかを、対照比較を通して明らかにすることであるため、写真・映画など様々な視覚表象を対象として、ソ連と旧ユーゴの共産主義文化に共通するモチーフを取りあげる予定である。

本研究課題によって収集した資料は、博士論文の骨子である対照比較の実証的土台を構成するものである。また、対照比較を傍証するための文献収集も実行することができたため、大変意義のある研究滞在を行うことができた。今後も本課題の遂行によって得た成果

を、博士論文執筆に生かすとともに、国内外で発表すべく、努力を続ける所存である。